

本園の教育目標

- ① 仏教の精神に基づき、すべてのいのちを尊び敬うところを育てる事を根幹にして、心身ともにバランスのとれた発達を促す教育・保育を行います。
- ② すべての子どもが健やかに成長するために適切な環境を確保し、あたたかい家庭的な教育・保育を行います。
- ③ 家庭や地域との連携を密にし、園と家庭や地域との相互理解と協調を目指します。

本年度定めた重点目標

- ① 安心して預けられる安全な園の環境改善に努めます。
- ② 広く開かれた園を目指し、保護者と教職員、子どもが接するように努めます。
- ③ 自己点検、自己評価を実施して、教育・保育内容の充実と改善に努めます。

自己評価表		評価項目		評価			取り組み状況及び課題
				A	B	C	
I	保育の計画性	1	園の教育理念・教育方針の理解	B			仏教的な理念に基づいた『まことの保育』を組み込んで、子どもの成長・発達に合った指導案を作成し月案・週案の組み立てまで細かく作り込んでいる。実践にあたり、より一層職員間の理解を深めていく必要がある。
		2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解	B			
		3	教育課程の編成	B			
		4	指導計画の作成	B			
		5	環境と構成	B			
		6	保育と計画の評価・反省	B			
II	保育の在りかた 幼児への対応	1	健康と安全への配慮	B			アレルギーのある子どもには、職員間で共通理解を徹底し、間違いのないように心がけている。今後特異な感染症対策なども含めた危機管理体制を構築し、園児の安全安心な園生活を保障していく。
		2	幼児の見守りと理解	B			
		3	指導と関り	B			
		4	保育者同士の協力・連携	A			

III	保育教諭としての 資質や能力・良識・適正	1	専門家としての能力・良識・義務	B	子どもの健やかな育ちを援助するために、教職員一人ひとりが学びを深め、園全体のスキルアップを図る必要がある。社会人としての良識やマナーについても、それぞれ我が身を省みていくことを心がけていきたい。
		2	良識とマナー	B	
		3	義務	B	
		4	組織の一員としての在りかた	B	
		5	保育の楽しみ・喜び	A	
		6	周りを感じ取れる感性・アンテナ	B	
IV	保護者への対応	1	情報の発信と受信	B	保護者アンケートなどを通して、園に対する要望や意見を的確にとらえ、少数意見であっても再度検討する姿勢を大切にしたい。社会人としてのマナーや、クレーム対応等についても、今後研修等を行い理解を深めていく必要がある。
		2	協力と支援	B	
		3	守秘義務の遵守	A	
		4	対応上のマナー・良識	B	
		5	クレームへの対応の仕方	B	
V	地域の自然や社会との関わり	1	地域の自然・人々との関わり	B	安全に配慮して、積極的に園外での活動を行った。 (お散歩・地域行事への参加・食育活動)
VI	研修と研究	1	研修・研究への意欲・態度	B	園内・園外研修を通して、それぞれの課題をもって学びを深めていった。研修に参加した職員が報告会を行い、職員全体で共通理解できるように努めた。教職員が指導する力を発揮するためには、一人ひとりの発達段階と個別の状況に応じて具体的に保育を構想し実践する力が必要である。これは教職員自身の豊かな体験を背景として展開されることが多いので、自らの豊かな体験を積極的に積むことが望まれる。
		2	保育教諭としての専門性に関する研修・研究	B	
		3	遊具・教材に関する研修・研究	B	
		4	園内の環境に関する研修・研究	B	
		5	今日的課題に関する研修・研究	B	
		6	自らを高めるための学習	B	

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

◎評価 B 達成されている

- ・自己点検、自己評価により客観的に自らを反省し、さらに充実した教育・保育ができるように努力する方向性を見出していくことができた。
- ・現時点ではおおむね目標を達成できている。今後も教職員相互で情報を共有し、子どもや家庭、地域との関係を密にしていきます。

今後取り組むべき課題

- ・教育・保育の根本の基本法、憲法などの理解を深めるようにする。
- ・安全、安心を確固たるものにできるよう、常に問題意識を持つようにします。
- ・マニュアルを実践的に活用するための方法を考えていきます。
- ・食育活動の推進を図り、食に対する感謝の気持ちを育てる。